

地域創生科目 南木曾町研修報告会

名古屋外国語大学 世界共生学部世界共生学科 2年

今村ちひろ 塚田那菜

田畑志織 田場小裕二

地域創生科目とは

人口急減・超高齢化といった現代の日本で大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生すること。

出典：内閣府地域創生

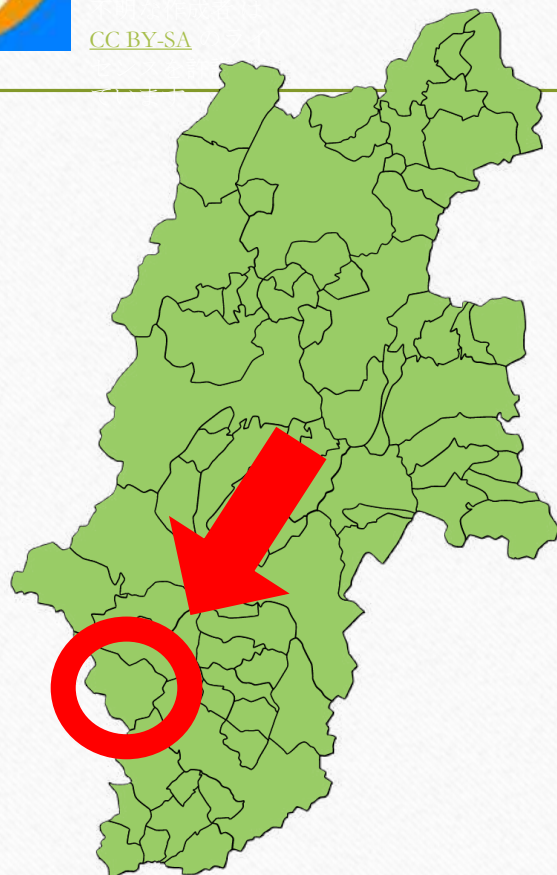
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/kakugi_index.html より



この写真

CC BY-SA

南木曽町について



所在地：長野県木曽郡
南木曽町

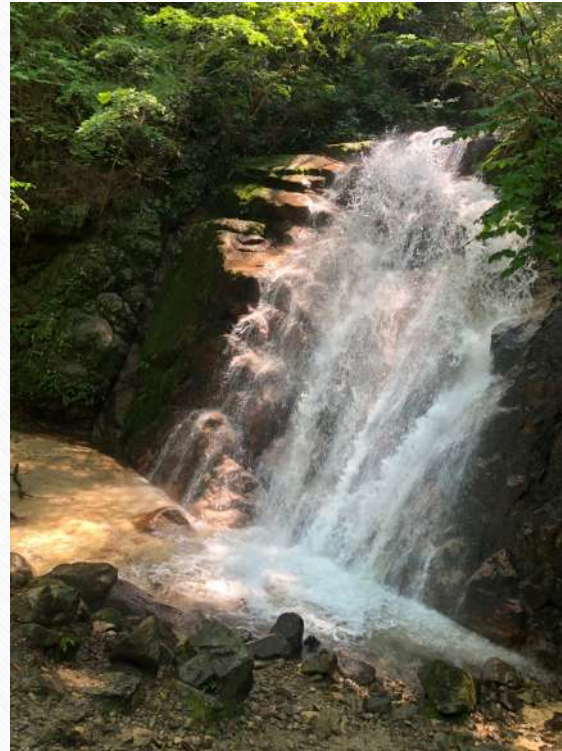
面積：215.93km²

人口：4 0 0 0 人弱

特徴：面積の94%が
森林

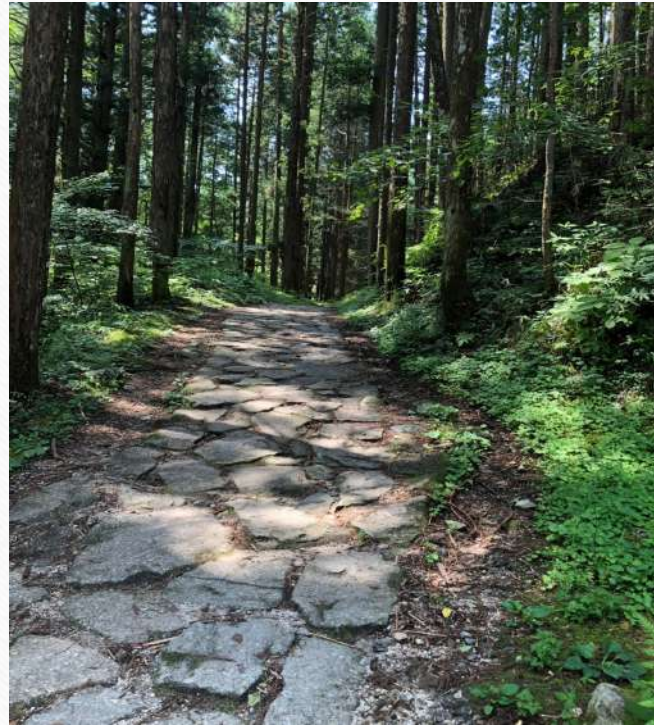
私達が思う南木曽町の魅力①

自然



私達が思う南木曾町の魅力②

中山道



私達が思う南木曾町の魅力③

妻籠宿



火祭り



南木曾町の魅力④

地元の方の温かさ



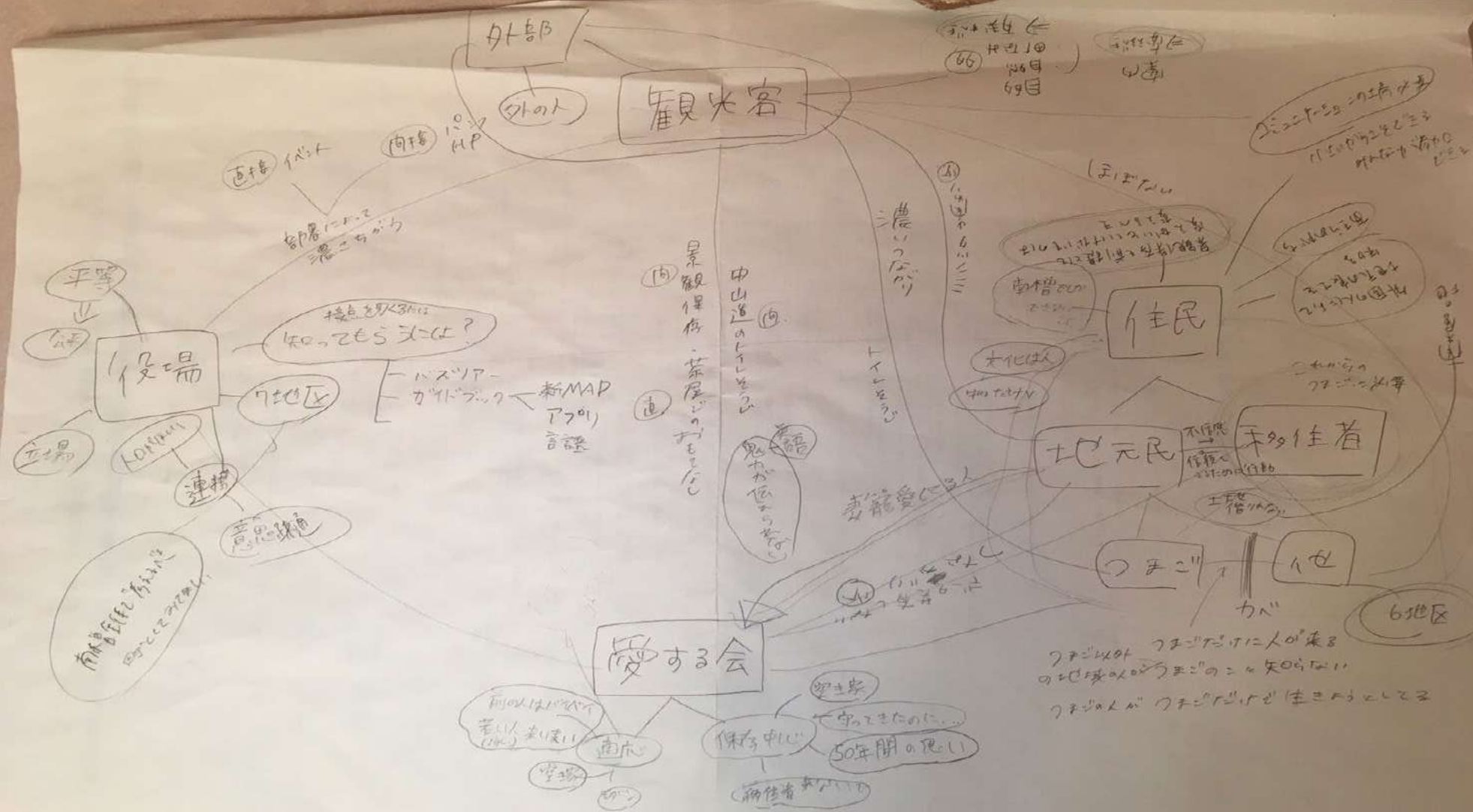


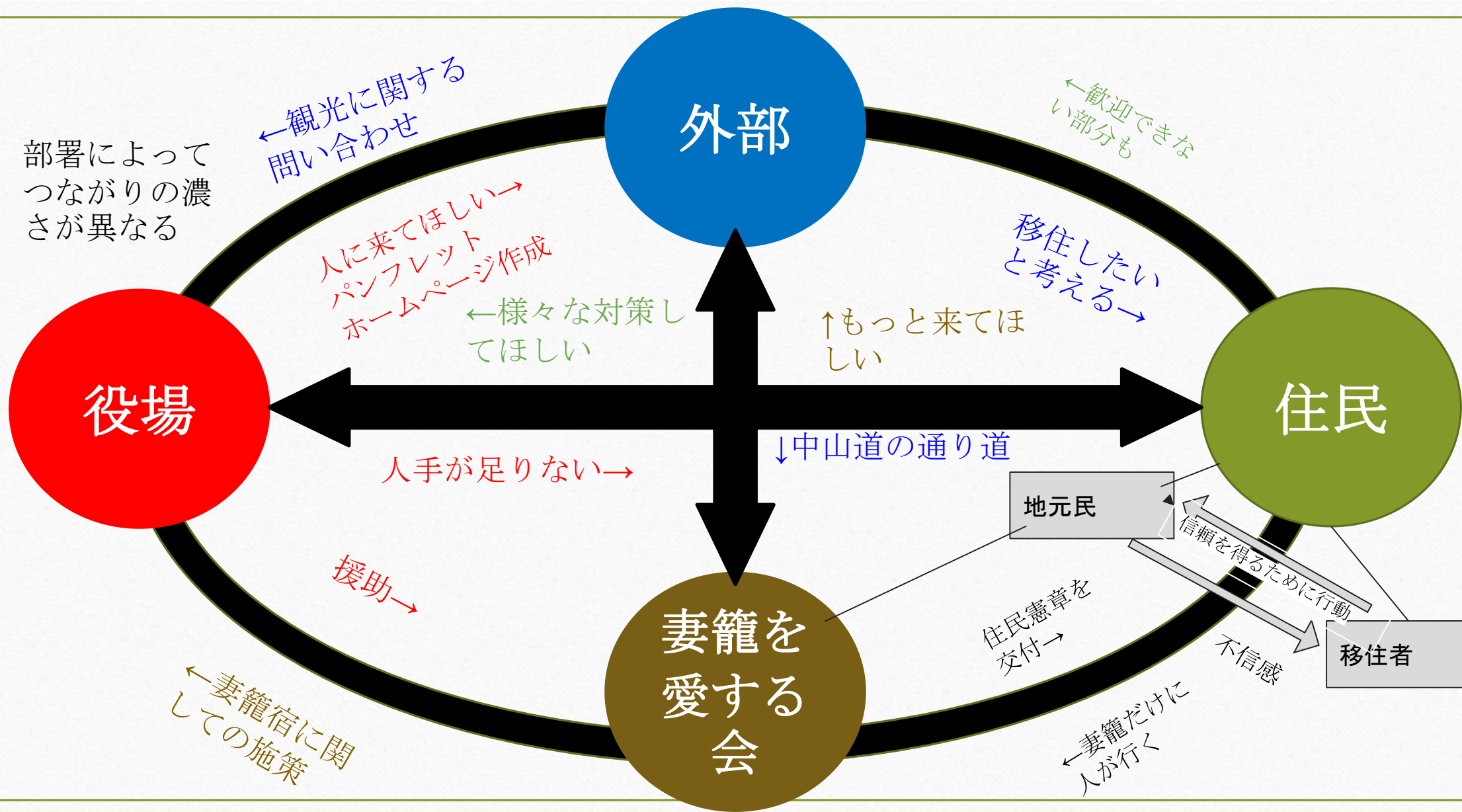
Made With
VivaVideo

日程	事前研修 8月1日	研修 22日	23日	24日	25日	26日	27日
研修内容	・妻籠宿訪問	・妻籠宿内で観光客にアンケート実施	・妻籠宿内にて観光客にアンケート実施後	・一石柅立場茶屋にて観光客にアンケート実施	・一石柅立場茶屋にて観光客にアンケート実施 ・馬籠宿訪問 ・火祭り参加	・アンケートとお話のまとめ作業	・南木曾町内での挨拶と報告
お話した人達	・妻籠を愛する会 理事長 藤原さん	・南木曾町副町長 勝野さん	・南木曾チャレンジクラブの稲葉さん	・ホテルゼナギ 代表取締役社長 岡部さん		・地域おこし協力隊の皆さん ・若者まちづくり会議の皆さん	・南木曾町町長 向井さん

今回のテーマ

旅人と南木曾町をつなぐも
の





アンケート目的・実施方法

【目的】

- ・観光客（外部の人）と地元民のつながりをみる。
- ・外部の人だからこそわかる南木曾に対する見方を発見する。
（例：魅力、問題点など、）

今回の研修の際に、
アンケート実施方法では、
日本語、英語、スペイン語の三
言語で実施しました。
多くの観光客の皆様のおかげで、
たくさんのデータが取れました。

アンケート調査の様子

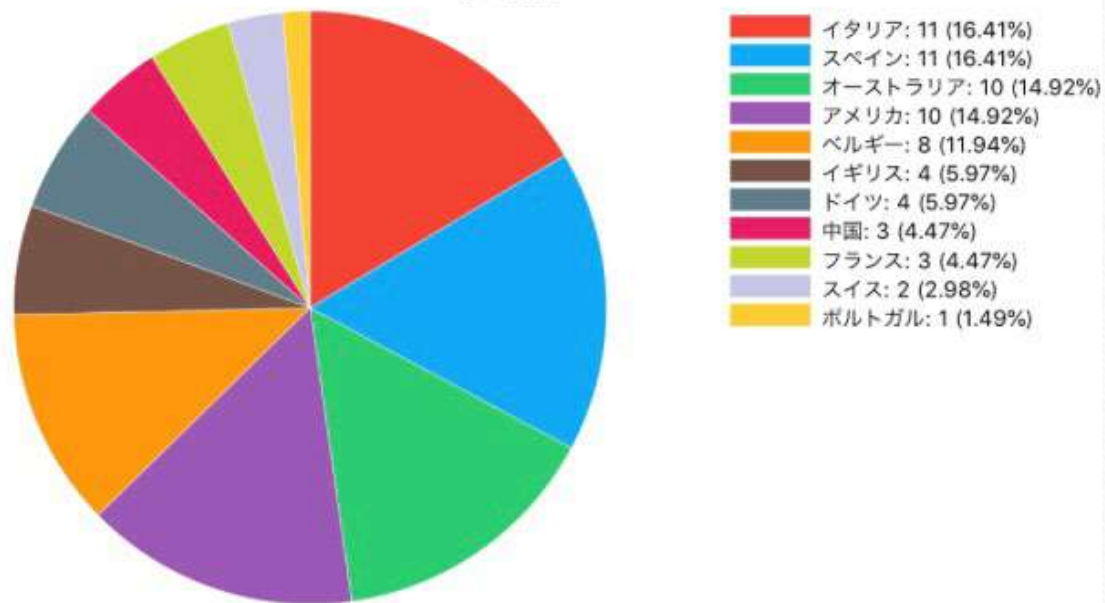


アンケート調査の様子

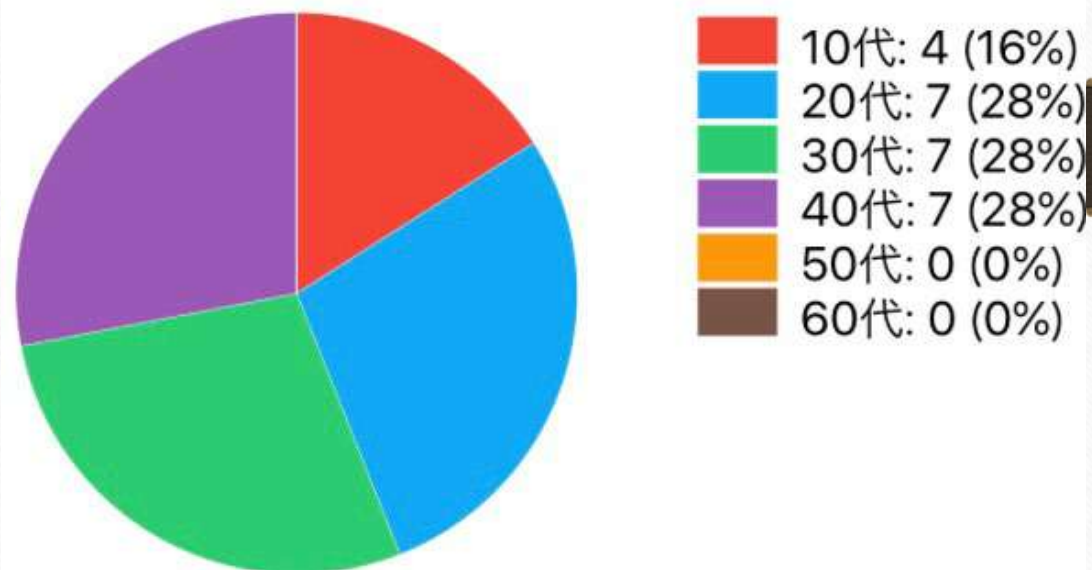


アンケート結果

国籍

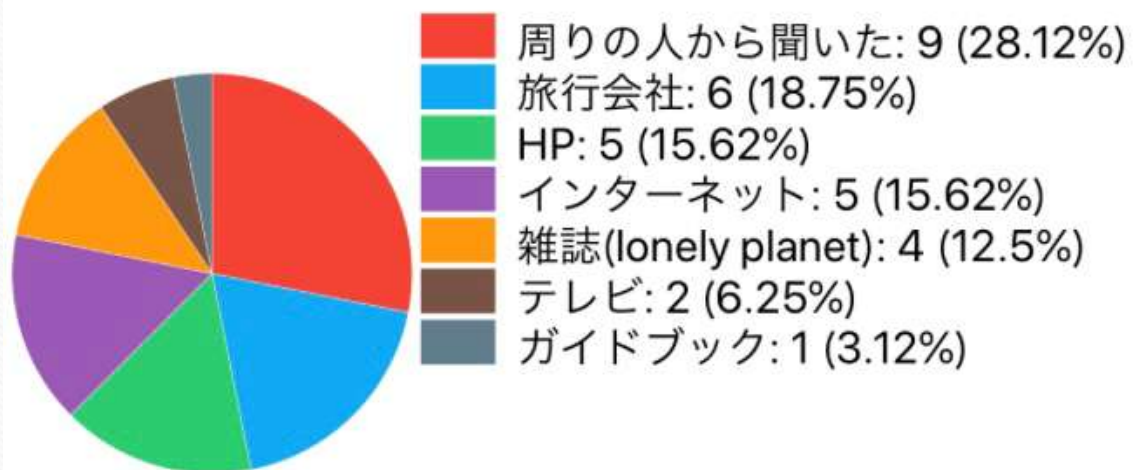


年齢

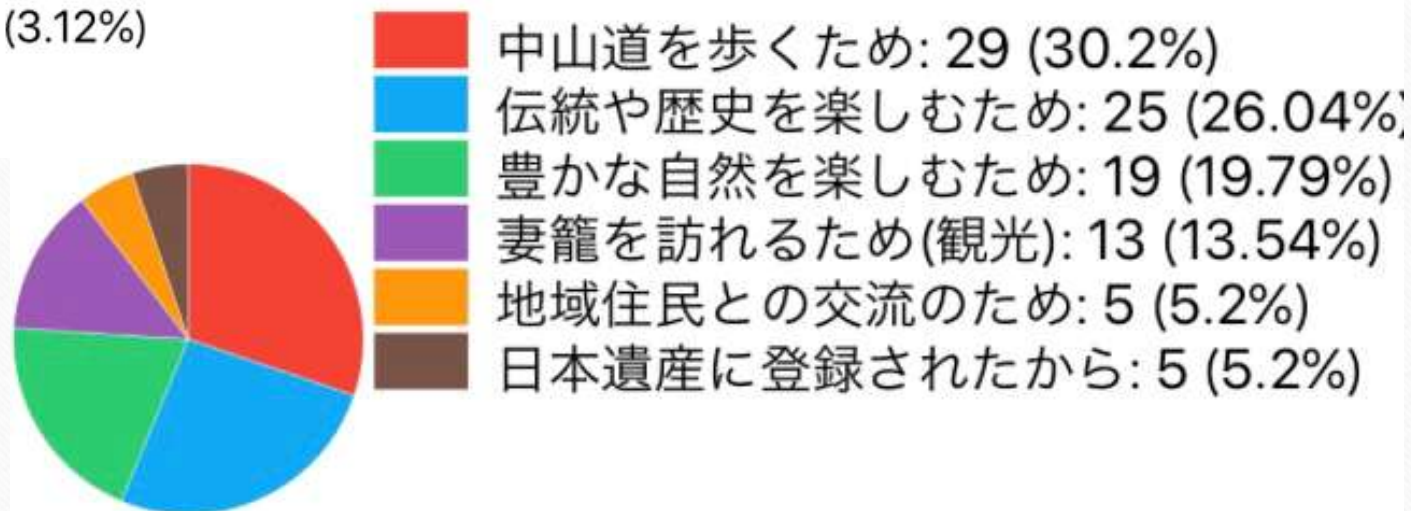


アンケート結果

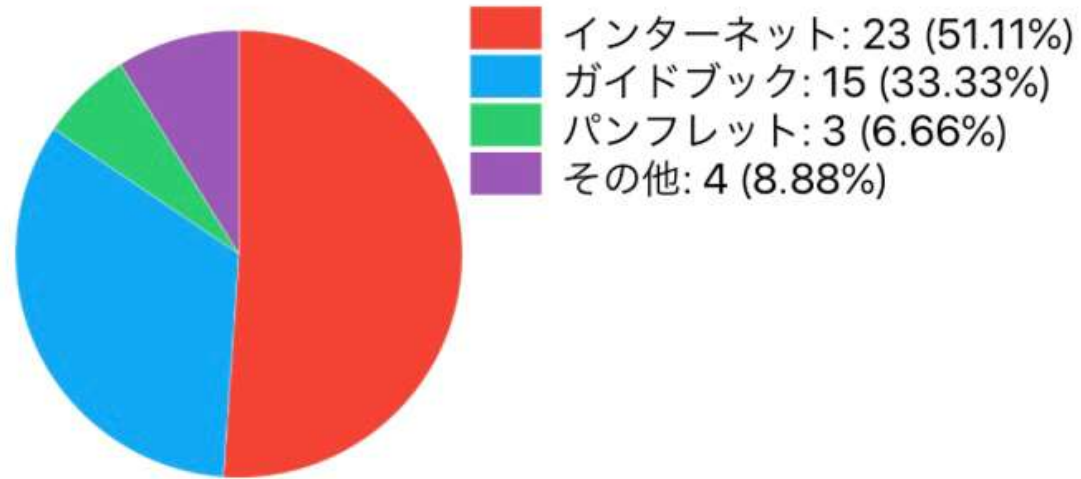
南木曾(妻籠)をどのような方法で知ったか



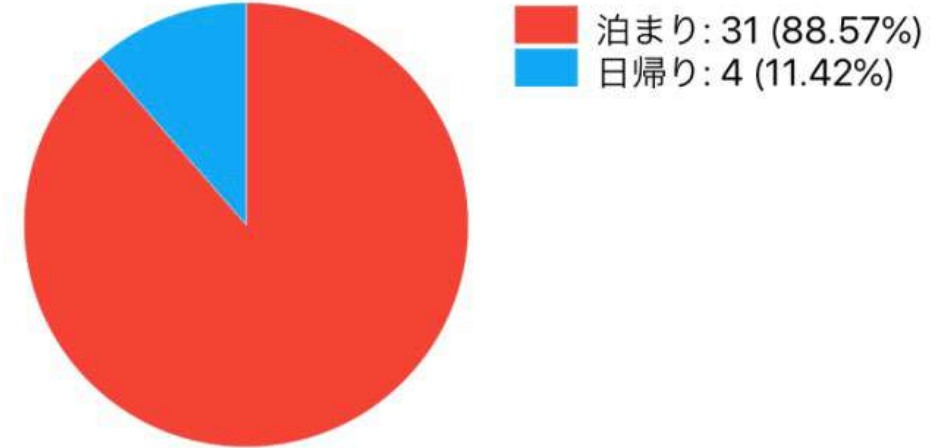
南木曾に訪れた目的



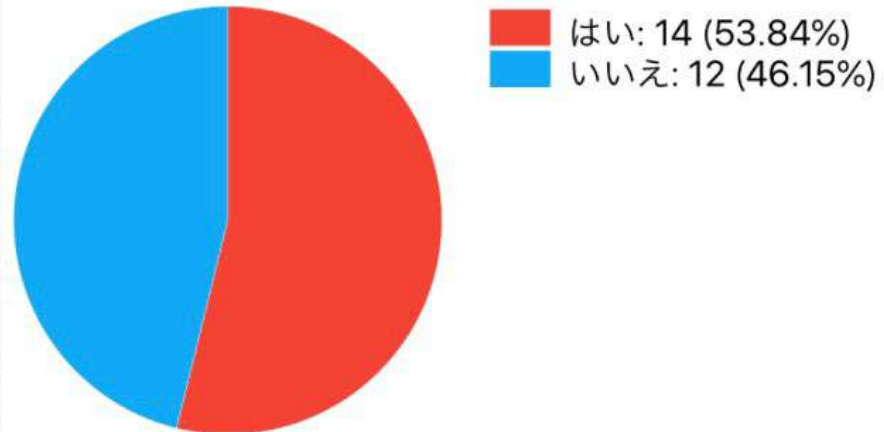
旅のガイドに何を使ったか



日帰りor泊まり



地元の方と話したか



アンケート結果から分かったこと

- 南木曾全体ではなく、馬籠宿から妻籠宿の区間でしかお金が落ちない
- 妻籠宿は知っているが、南木曾を知らない
- ガイドブックでなく、インターネットを利用する観光客が多い。
- 宿泊はするが、宿泊先が馬籠宿であることが多い。
- 地元の方との会話が道案内であることが多く、案内板の必要性を感じた。

妻籠を愛する会の方々

保存中心の方たちの考え

- ・ 守るのは住んでる人が中心に行う
- ・ 50年間守ってきたのに変えるのは勇気がいる

時代に適応すべきという人々の考え

- ・ これから妻籠を守っていく人々は若者なのだから、もっと若者の意見を取り入れるべきである
- ・ 時代に合わせてモダンを取り入れることも重要



南木曾チャレンジクラブ稲葉さん

観光客とのつながり

- ・子どもたちは観光客との交流に興味を持っているが大人が英語を話せないため敬遠しがち
- ・情報を共有する場はあるが時間が合わず、みんなのリアルな意見を取り入れることができない

南木曽チャレンジクラブ稲葉さん

稲葉さんの考え

- ・ 交通の便が悪く南木曽から若者が出て行ってしまう
- ・ よそものの感を大切に



ホテルzenagi代表取締役岡部さん

岡部さんの考え

- ・海外の人たちに知ってもらふことで田舎の価値を再認識してもらいたい
- ・自分だけでなく地域の人は何を売って、何を生き残らせようとしているのか



ホテルzenagi代表取締役岡部さん

- 街並み保存を重要視するあまり、開発ができなかったり体験型の活動も容易には行えない
- 地元の人たちとのギャップはコミュニケーションで解決するべき



若者の方たち

若者街づくり会議の考え

- ・妻籠は閉鎖的に映ってしまい、自分たちは中に入っていきづらく、相談もしにくい
- ・イベントを開催する際などに建物を貸してもらいにくい



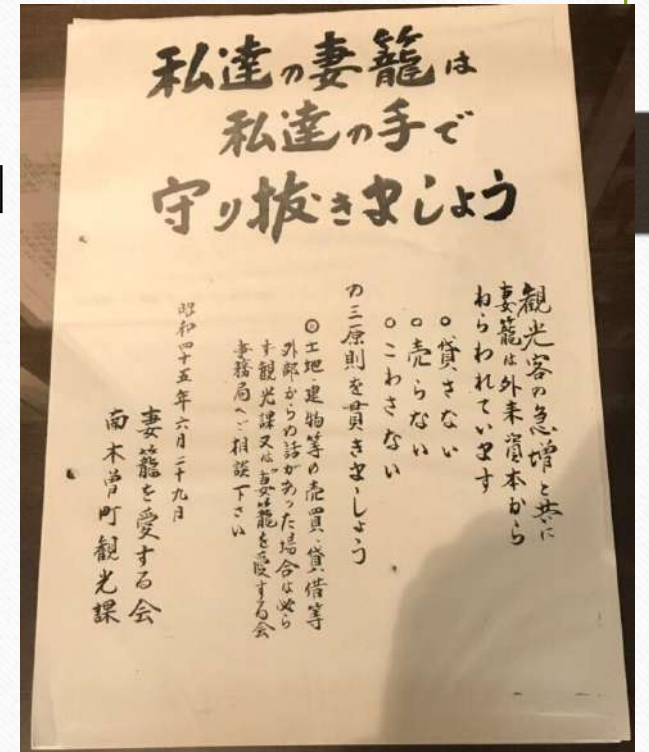
若者の方たち



- ・ 課題について話す機会がない
- ・ 子どもや若者が少なく地区ごとの団結力が低い
- ・ 南木曽のいいところを発信してもっと知ってもらいたい

現状

- 少子高齢化＋都市部に移住する人が多い
- 住民憲章で「売らない」「貸さない」「壊さない」と決められており、妻籠宿内でのルールが厳しい（空き家の購入・賃貸など）
- 住民の警戒心が強い
- 南木曾町全体の経済サイクルができていない



課題

今回の研修から見つかった課題

- ・ 変えるべきもの、変えないべきものの考えがそれぞれ違う。（移住者や空き家についてなど）
- ・ 世代やルーツを超えた住民同士が意見交換する機会が少ない。
- ・ 南木曾町をどうにかしたい気持ちは住民は、一緒。
しかし、方向性はみんな違う。
- ・ お金を使う先が中津川といった栄えた町

来年につなげること

来年の研修生に受け継ぐこと

- ・ 南木曽町7地区全てを見て回ること。
- ・ 南木曽町の妻籠宿以外の魅力拠点が分かる地図をつくること。
- ・ 積極的に住民の話を聞くこと。
- ・ アンケートで南木曽のマイナス面も聞く。